

<b>心理学的な理論と支援(発達心理学)</b>	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	平川 昌宏	

### ■授業のテーマ

発達心理学の基礎的理論と知見の理解と応用

### ■授業の目的

発達心理学の専門的知識・技法を理解し、実践や研究に応用することができる。

### ■授業の到達目標

- ・「発達するとはどういうことか」という問いについて、生涯発達の観点をふまえ自身の考えを述べるができる
- ・人生の各時期の発達の特徴、さらにはそこで生じうる問題について述べるができる
- ・「発達のつまずき」とそれに対する支援について概要をのべるができる
- ・「発達心理学」の基礎的理論と知見の理解を通して、自身の実践に活用できる内容について、また、より興味・関心を持った内容について詳しく述べるができる。

### ■授業の概要

人の発達とは「個性化」と「社会化」のプロセスである。つまり、一生涯を通して取り巻く環境や他者さらには自分自身と主体的に相互作用を行い「その人らしさ」を豊かにしていくと同時に、そのような相互作用の中で社会・環境とその人なりに上手につきあう方法を習得し、社会の中で「その人らしさ」を発揮させていくプロセスであると考えられる。さらに、「その人らしさ」が受け入れられ尊重される経験が豊かな発達の土台となると言えよう。ただし、環境や他者さらには自分自身への関わり方、そして、取り巻く社会・環境には多様性があり、一生涯を通して変化していく。加えて、「個性化」と「社会化」のプロセスに困難が生じた時、発達上の問題として「生きづらさ」を経験することも考えられる。

この授業では以上の発達観に立ち、発達心理学の理論と得られた知見について学修することを通して、人の発達のプロセスとその過程で生じうる困難さについて、さらには、発達上の「いきづらさ」を経験している人々に対する支援について理解を深めることを目的とする。必読図書には、各章に学びを深めるための「QUESTION」が掲載されている。「QUESTION」に対してその都度立ち止まり、自身の考えを整理しながらより深い理解を目指してほしい。さらに、各章の最後に「POINT」が示されている。「POINT」によって学修内容を確認すると同時に、それをベースにしながら主体的に学びを深めていってほしい。

### ■在宅学修15のポイント

	テーマ(テキスト関連章)	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか① 生涯発達心理学の理論的枠組み	獲得と喪失としての発達、発達の多次元・多方向性、発達の多要因性	chapter 1 の 1 節「発達観の変化」2 節「生涯発達心理学の理論的枠組み」を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
2	発達するとはどういうことか② 遺伝と環境の発達に及ぼす影響	双生児法、共有環境、非共有環境	chapter 1 の 3 節「進化の産物としてのヒトの発達」、4 節「社会や文化の産物としての発達」、5 節「遺伝と環境」を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
3	生命の芽生えから誕生まで	胎児の運動や感覚、胎児と母親のコミュニケーション、出生前診断	chapter 2 を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。

	テーマ(テキスト関連章)	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
4	赤ちゃんがとらえる世界	ピアジェの発達理論、感覚運動期、対象の永続性、	chapter 3 を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
5	コミュニケーションと人間関係の発達	ベビースキーマ、共鳴動作、アタッチメント、ストレンジ・シチュエーション法、気質、発達の可塑性	chapter 4 を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
6	言語と遊びの発達	象徴機能、共同注意、社会的参照、幼児の言語発達、外言、内言、遊びの発達	chapter 5 を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
7	自己・自己制御の発達	自己の諸側面、第一次反抗期、自己意識的感情、概念的自己、拡張自己、自己制御	chapter 6 を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
8	仲間の中での育ち	心の理論、誤信念課題、幼児の「うそ」、道徳性、共感性と向社会的行動、実行機能、ギャング・グループ、社会的比較、妬みと関係性攻撃	chapter 7 を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
9	学校での学び	前操作期、具体的操作期、形式的操作期、記憶の発達、ワーキングメモリ、アンダーマイニング効果、メタ認知	chapter 8 を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
10	青年期の発達と直面する課題	思春期スパートと第二次性徴、青年期における自己認知の変化、青年期の対人関係	chapter 9 を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
11	青年期から成人期へ	アイデンティティ、職業選択とキャリア発達、家庭生活の変化	chapter10を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
12	成人期の発達と直面する課題	世代性、成人期の職業生活における発達、親としての発達、育児不安、親の介護・看取り	chapter11を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
13	高齢期の発達と直面する課題	エイジズム、心理的加齢モデル、高齢期の認知機能の変化、「補償」と「補償を伴う選択的最適化」、認知症への予防的介入、パーソナリティの発達、サクセスフルエイジングと生きがい、コンポイ・モデル、延命治療と尊厳死	chapter12を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
14	「発達をつまづき」の理解	発達障害、児童虐待とアタッチメントの障害	chapter13の第1節「発達におけるつまづき」、第2節「発達障害」、第3節「児童虐待とアタッチメントの障害」、第4節「長い時間軸から見たつまづきと可塑性」を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。
15	「発達をつまづき」の理解と支援に求められる発達の観点	多面的・総合的理解、時間的・発生的プロセスとしての理解	chapter13の第5節「つまづきの背景にある時代や文化」、第6節「つまづきの理解と支援に求められる発達の観点」を読み内容を理解するとともに、QUESTION に取り組んでください。

## ■レポート課題

課題 1	人の発達に影響を及ぼす環境の1つとして人的環境がある。人の豊かな発達における対人関係の重要性について、詳細に論じなさい。加えて、論じた内容をふまえ人の発達や発達上の「生きづらさ」に対してどのような支援が重要になるかあなたの考えを述べなさい。
課題 2	必読図書で述べられている内容に関連して、あなたが人の発達やその支援について理解を深めるための「問い」を立てなさい。さらにその「問い」とそれに対するあなたの考えについて、「課題②アドバイス」に基づきながら詳細に論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス

### 課題1 アドバイス

対人関係の重要性については、ある時期の発達における重要性のみ論じる（たとえば、発達初期のタッチメントの重要性だけ論じる）のではなく、幾つかの時期を取り上げその時期の発達における対人関係の重要性に触れたうえで、共通して重要となる事柄について述べていってください。そして、あなたが発達を支援したいと思っている人や興味関心のある発達上の問題を取り上げ、上で述べた内容をふまえどのような支援が重要になるか詳細に論じるようにしてください。

### 課題2 アドバイス

必読図書の学修の中で、「では、このことはどうなんだろう？」や「自身の経験などと照らし合わせると、書かれていることがしっくりこない。なぜだろう？」といった、学んだからこそ生じる疑問が生じるはずです。まず、それを「問い」という形で記述してください。その上で、以下の流れでレポートを作成してください。

- 1) その「問い」は必読図書で述べられているどの内容について学んだ時に生じたのか？
  - ・必読図書の中の該当する内容を要約してください。
- 2) なぜその「問い」を立てたのか？
  - ・あなたが「問い」を立てた背景には、その内容についてのあなたの興味関心や問題意識があるはずです。その興味関心や問題意識を意識化し、可能な範囲で詳しく論じるようにしてください。
- 3) その「問い」に関連する発達心理学の理論や知見
  - ・その「問い」に関連する発達心理学の理論や知見（明らかになっていること）を調べ、その内容を要約してください。用いた文献は必ず引用文献に明記すること。
- 4) その「問い」に対してのあなたの現在の答え（仮説）
  - ・3)を踏まえたうえで、自身で立てた「問い」に対する現段階での暫定的な「答え」を述べて下さい。その際、そのような「答え」に至った根拠について論理的に論じて下さい。また明確な「答え」に至らない場合は、どのような情報が必要なのか、何を調べる必要があるのかについて論じて構いません。
  - ・自身の経験則や信念ではなく、発達心理学の理論や知見に基づいて論じるようにしてください。

## ■評価の方法・基準

課題レポート（60%）、試験レポート（40%）。

発達心理学の基礎的な理論や知見について理解を整理することに加え、それを自分の興味や関心、もしくは実践にいかに関連させ、考察されているかがレポート評価の基準である。

## ■参考文献（\*印=大学から送付される必読図書）

- \*1) 坂上 裕子他著 2014 『問からはじまる発達心理学—生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣
- 2) 無藤 隆・子安 増生編 2011 『発達心理学Ⅰ』 東京大学出版会
- 3) 無藤 隆・子安 増生編 2013 『発達心理学Ⅱ』 東京大学出版会
- 4) 岡本 祐子・深瀬 裕子編著 2013 『エピソードでつかむ生涯発達心理学』 ミネルヴァ書房
- 5) 伊藤亜矢子編著 2011 『エピソードでつかむ 児童心理学』 ミネルヴァ書房
- 6) 大野 久編著 2010 『エピソードでつかむ 青年心理学』 ミネルヴァ書房
- 7) 大川 一郎他 編著 2011 『エピソードでつかむ老年心理学』 ミネルヴァ書房
- 8) 遠藤利彦他 著 2011 『乳幼児のこころ - 子育て・子育ての発達心理学』 有斐閣
- 9) 日本発達心理学会編 2012 『発達科学ハンドブック 5 社会・文化に生きる人間』
- 10) 日本発達心理学会編 2012 『発達科学ハンドブック 6 発達と支援』